

平成5年、日本初の自然遺産として世界遺産に登録された白神山地を有する藤里町。その大自然が濾過した生命の水「白神山水」を、非加熱濾過方式とマイナスイオン化によるこだわりの天然水に仕上げ、会員制システム導入のもと地域活性化に繋がります。

地域活性化の起爆剤として取り組む「白神山水」(藤里町)



白神山地の麓に完成したミネラルウォーター生産拠点施設「白神山水の館」



この白神のブナ林が悠久時を超え生命の水を育みます。

白神山地の大自然が
生み出した生命の水

平成5年、屋久島とともに日本初の自然遺産として世界遺産に登録された白神山地。16千971 haに及びる原始の森が息づく環境は、世界でも数少ない山地であり、氷河期以降のブナ林では東アジアの代表的な山地であります。その白神山地が世界遺産登録となつてから今年で10年目を迎えています。

「承知のとおり、ブナの森は、優れた保水力を持ち、土壌流出を防ぐ役割も果たすことで、洪水・土石流から人々の生活を守り、また、豊富な水資源の源となつてきました。ブナの森は、今日まで悠久の時を「緑のダム」としてその役割を果たしてきたのです。ブナの森に降った雨や雪解け水は、長い年月をかけて地中にしみこんでいき、やがてミネラル分豊富な、湧き水となつて流れ出てくるのです。その水はまさに、白神の大自然が生み出した生命の水であります。

試行錯誤の末「白神山水」誕生へ

藤里町では、遺産登録以前から白神の水の活用について注目していましたが、財源の確保や施設(ミネラルウォーター生産工場)の立地条件

水源探しに試行錯誤を重ねていました。そして、ようやく施設の建設地を同町の真名子地区とし、水源地（取水地）を工場から北西に約6・2km離れた白神山系の通称「物見山」に決めました。

平成14年、国の新山村振興等農林漁業特別対策事業の採択を受け、国庫補助金や辺地債、町の一般財源などを活用しての事業着手にこぎつけました。

白神山地の湧き水を利用したミネラルウォーター、その名も「白神山水」と命名され、広く全国に販売するための拠点施設「白神山水の館」もこの春には完成し、生産プラントの整備を行い、この9月中旬から本格生産となつていきます。



取水地周辺の物見山付近に流れる湧き水

横ボアリング方式による 自然環境への細心の配慮

「白神山水」の取水地である物見山は、世界遺産地域の周辺に位置しており、当然、自然環境には細心の注意を払う必要があります。

そのため取水地の掘削作業においては、一般的な縦型によるボーリングを行わず、標高600m以上の物見山の斜面岩盤部から、横にボーリングを行い自然の原理に従い水脈を捕らえ、自然破壊を最小限にと止めた方式を採用しました。

これにより、天然水は直接配管を通じて6・2km先の生産工場（白神山水の館）まで送水され、貯水タンク等に貯めることなく、また一切外気に触れることがないため、雑菌等が発生しない環境となっております。

生命の水を生かす非加熱 濾過方式とマイナスイオン の付加価値

ミネラルを豊富に含んだ「白神山水」であるが、広く

一般消費者に向けて販売するとなると、法のもと、当然無菌化作業を行わなければなりません。無菌化というすぐ加熱処理を連想するが、それではせっかくの白神の生命の水が台無しになってしまう可能性があります。

そこで、ミクロン単位で異物除去、完全除菌をしてくれる高性能セラミックフィルターによる非加熱濾過方式を採用しました。これにより白神の森が濾過した天然水そのままの味を、提供できるようになりました。

また、セラミックフィルターを通過したあと、12・600ガウスの磁石とリフレクターの作用により、今話題のガンや老化の要因となる活性酸素の抑制作用があると言われる、マイナスイオン水化を実現し、白神山水にさらに付加価値を付けたことも特徴の一つとなっております。

会員制による 販売システムの導入

藤里町では、この水を量販店で営利目的に大量販売するのではなく、水を通して白神山

地の保全活動を、多くの需要が予想される都市部の住民にも支えてもらいたいとしております。

そこで、町から工場の管理運営について業務委託を受ける3セクの（株）藤里開発公社では、「白神山水」を通じて地域を全国にアピールしようと、一般販売のほかに会員制による販売システムの導入を決定し、この6月から「白神山地の水の会」を立ち上げ、会員募集しております。

会員には、個人による会員と法人を対象とした特別協会の2種類ありますが、個人協力は年会費1万円（3年間有効）を払うと、白神山水が市価の半額近い値で購入できるほか、地震等有事の際には優先的にいち早くお届けする配送体制によるサービスも行つております。

また、会員の購入代金の一部は、白神山地の保全活動にも役立てる方針であります。

地域活性化の 起爆剤として取り組む

世界遺産登録となつて10年。今後では、白神山地への観光を産業の中核に置き、種々の地域振興策を講じていきたいとしています。

白神山地という貴重な地域資源を生かし、今回「白神山水」により構築した会員制販売システムではありますが、目標とする年度内1万人の会員にはまだまだ程遠い現状にあります。

これからの本格的生産・販売を契機に会員数の増大をはかり、会員ネットワークを充実させることにより、地域の特産品のPRや、観光振興等にも繋げて行き、地域活性化の起爆剤として取り組んでいくこととしています。

これからの白神の里、藤里町の「白神山水」に注目したいところです。



「白神山水は」、2リットルと500ml それに、350mlの3種類のペットボトルでの販売となります。